

# ジャンパー

2008(平成20)年2月21日鑑賞〈東宝試写室〉

★★★



監督＝ダグ・リーマン／原作＝スティーン・グールド『ジャンパー 跳ぶ少年』（早川文庫刊）／出演＝ヘイデン・クリステンセン／サミュエル・L・ジャクソン／レイチェル・ビルソン／ジェイミー・ベル／ダイアン・レイン（20世紀フォックス映画配給／2008年アメリカ映画／88分）

……遺伝子異常によって生まれたという、瞬間移動の特殊能力を備えた人間がジャンパー。他方、その抹殺を目指す秘密組織がパラディン。そんな奇想天外なアイデアから生まれた、世界を股にかけた死闘の行方は……？ 「映画はアイデアと脚本が勝負！」の実践だが、さてあなたのお好みは……？

映画はアイデアと脚本が勝負！ 遺伝子異常により生まれた瞬間移動の能力を備えた人間＝「ジャンパー」というアイデアは出色！ ジャンパーは世界中どこへでも一瞬のうちに移動できるから、究極の自由を手に入れるとともに、銀行強盗だって易々と……。

この映画の主人公は15歳のときにジャンパーの能力に気づき、23歳の今、その能力を駆使して毎日を生きているデヴィッド（ヘイデン・クリステンセン）。世界の頂点に立っている気分だが、同時にその秘密を恋人のミリー（レイチェル・ビルソン）にも打ち明けることができないため、彼は孤独だった。

他方、「そんな能力は神だけにしか許されない」と考え、ジャンパーたちの抹殺を使命とする秘密組織がパラディン。その精鋭エージェントがローランド（サミュエル・L・ジャクソン）だ。はじめてのパラディンからの襲撃から逃れたデヴィッドは、故郷でミリーと再会し、今は彼女の憧れの地ローマで甘いデートを楽しんでいたが、そこで出会ったのが同じジャンパーであるグリフィン（ジェイミー・ベル）。次々と迫ってくる危機を前に、デヴィッドは、パラディンとの死闘をくり返してきたグリフィンと組んでローランドたちに立ち向かっていくことに。

ニューヨーク、ロンドン、パリ、ローマという大都会でのリッチな生活から、スフ

インクスの上でのランチ、キリマンジャロの上での昼寝、フィジー諸島での大波を追ってのサーフィンまで、ジャンパーたちの自由な行動はまさに規格外！ さらに闘いの展開においても、戦車が行き交うチェチェンでの起爆装置をめぐるデヴィッドとグリフィンとの闘いなど、世界を股にかけたジャンパーたちの行動は実に奇想天外（荒唐無稽……？）。

この手の映画は好き嫌いがハッキリ分かれるだろうが、さてあなたのお好みは……？

2008(平成20)年2月22日記

ミニコラム

### 野茂への拍手と、さらなる期待

リチャード・ギア扮する『ハンティング・パーティ』の主人公である戦場ジャーナリストのサイモン・ハントはメチャ個性の強い男。そうだからこそ、あんな無茶苦茶な取材旅行ができたわけだが、08年7月17日引退を発表した野茂英雄投手は、彼に負けず劣らず個性の強い男。

和をもって貴しとなす。AD604年に聖徳太子が制定した17条の憲法が今なお日本人の心の拠り所だが、国際化が進みグローバルな競争社会に突入した今日、そんな価値観だけでは世界に伍していくのは無理。それを実践で日本人に示したのが、サイモン・ハントと同じフロンティア・スピリットの持ち主 NOMO＝野茂だ。彼のトルネード投法は村田兆治投手のマサカリ投法と同じで、常識にとらわれない独自の工

夫。結果がすべての勝負の世界は、そんなオレ流でオーケーのはず。ところが、日本の狭い野球界と野球観は彼の大リーグ挑戦に異論を唱え、協力を拒否したはずだ。今でこそ、後に続いたイチロー、松井秀喜、松坂大輔らが活躍だが、日米通算201勝を挙げた野茂の突破力はすばらしい。そんな彼は、03年のNOMO ベースボールクラブの設立など、04年の石毛宏典氏による四国アイランドリーグ設立と同じように、やるのがユニーク。そして地に着けたもの。マスコミ受けを狙った派手な行動ではなく、自己の信念に従って行動した真のサムライ野茂投手。私はそんな彼に拍手するとともに、引退後の野球界におけるさらなるフロンティア・スピリットの展開に期待したい。

2008（平成20）年8月5日